

旭ヶ岡の家

家族会 たより

第519号 平成29年11月

「希望の光が灯されて」

函館おしま病院

福德 雅章



2001年3月、私はホスピスを創りたいという思いで故郷・函館に帰ってきました。とは言っても、何のあても無かったため、実現するためのいいアイディアも浮かばずに日々を過ごしていました。そんなある日、グロード神父様のお顔が浮かびました。

神父様との最初の出会いは、私が元町白百合幼稚園に通っている時で、その時神父様はお隣のカトリック元町教会の司祭を務めておられました。司祭と園児という立場ですので、出会いなんて言うのはおこがましいですが、確かに私の卒園アルバムには若き日の神父様が写っています。次の出会いは、祖父が旭ヶ岡の家に入居している時でしたが、訪問した際、温かくて家庭的な、遊び心いっぱいの環境に興味を引かれただけでなく、高齢者に敬意を持って接する職員の皆さんの姿勢に感銘を受けました。この時、私は旭ヶ岡の家に「ホスピスのこころ」を感じたのかもしれない。

グロード神父様なら私の思いを理解し、何かアドバイスして下さるかもしれない、と直感した私は突撃訪問し、それが3度目の出会いとなりました。神父様は私の思いを十分に聴くだけでなく、フランスやスイスのホスピスについて話してくださいました。何より嬉しかったのは「函館にもホスピスが必要ですよ。チャンスはなんぼでもありますよ」という言葉でした。私の中に希望の光が灯されました。

数ヶ月後、今の病院の院長にならないか、という話が突然舞い込み、夢の実現の第一歩を踏み出しました。さっそく報告に伺うと、神父様はニヤリと笑い「運のいい男だねー」と言われました。2年後、念願のホスピスを開設し、その後も私は何かと神父様に会いに行きましたが、いつも変わらぬ笑顔で迎えて下さり、それだけで私は気持ちが落ち着いたものです。最後の話題は「神様と宇宙の神秘」でした。いつものように函館弁でユーモアたっぷりに私の心を和ませてくれました。次はどこでお会いできるでしょうか。